

出先 につ
 発当延ほ四
 指日期り月
 たに快と雨二
 恒よ晴く九
 例る予も日
 と準備定お昨
 なっ体どお夜
 て操おの来
 る行出の雨
 日っ発登五
 がて前山月
 あ後以小附
 い校室五月
 に庭秀三近
 くを雄日は

報 出 口 一

一、第二十三回 由良岳登山

五月三日

近はす

- (2) ① 第二十三回 由良岳登山 (五月三日)
- ② 第八回 さなほり 団体対抗ソフトボール
- ③ 四月対抗五日 午後一時より
- ④ 青年男子ソフトボール
- ⑤ 四月対抗五日 男女各チーム

はは 発子 た 公 朝
 か 揮 ども え 民 朝
 消 決 育 達 館 館
 防 勝 友 第 第 第
 団 戦 会 三 事 二 一
 ⑭ 昨 子 試 合 合 合
 ⑤ 年 消 合 実 業 業
 公 防 ム す 業 会 会
 民 同 対 ガ セ ン 達 意 地
 館 対 公 民 館 ガ ン 地 意 地
 対 決 と なる、昨年

二、
 八回団体対抗ソフトボール大会
 四月三日
 八時開始
 午後一時三十分
 足がたつたこと、先日小学校の登山遠
 かつた。途中、ランナーは七時頃過
 安全連絡にとりながら、午前十一時半頃
 は全山の頂に到着、爽快な気分の中、そ
 汗をかいたと、休憩の後、下山開始
 れに弁当を開き、五時頃、所々館長が
 行動なもので、三時頃には、全員の宿舎
 確認、午後二時頃には、全員の宿舎に
 し、由良岳登山も皆様の協力により無事終了

- (1) 昭和三十六年度 行事計画
- ① 文化六十年度 行事計画
- 部部体 部部文 部部文
 員長育 員長化 員長幹
 部 部 部
 中山枝奥小 中山枝奥小
 山西田川野 山西田川野
 田訓隆 田訓隆
 鶴久亮 鶴久亮
 子 子
- 中山西村副 中山西村副
 谷口均治 谷口均治
 弘美 弘美
- 中山西村副 中山西村副
 谷口均治 谷口均治
 弘美 弘美
- 中山西村副 中山西村副
 谷口均治 谷口均治
 弘美 弘美

- ① 盆踊り大会 (七月、十二月、三月)
- ② 高齡化懇談会 (七月、十二月、三月)
- ③ 八良の里センター前広場 (午後八時、午後十時)
- ④ 九月三懇談会 (第二回)
- ⑤ 文藝祭 (九月三日)
- ⑥ 作品展等 (九月三日)
- ⑦ 婦人会と共催 (九月三日)
- ⑧ 各学区選手五名出場
- ⑨ 宮津市と地域づくり
- ⑩ 由良地区内史跡を訪ねる
- ⑪ 農閑期保存

しいのべ官賣評はい如十七四一て 居沢みえ清つつ名のそ
 よな若制て津名を云た来、、虚又な山つなめたたにこ願の
 戒ういし定も市的叩えも 弥葉普不空祭いのけが 古がなれが石
 名かだかなら役でか の十陀師賢動蔵礼。舟たら海老 っが叶を
 ろしくつ所なれ経と三如如菩明菩日 虫舟 草のこて所え高
 幸うた たのかな濟思、来来薩王薩の が虫積で話の扱謂らく
 郭いからわが職つが的う虚 様十 居のみ包で風り、れ積
 然にと か 員たらに信空十八五二は三 た卵上みは習 十るみ
 自も 松ら明の故 も仰蔵一、、十日 とがげ も多三おあ
 性見尋原な治方か立恵心菩、親地釋三や の り菓こ く参告げ
 信つね寺い拾に 派まの薩阿音蔵迦仏十 事か 繩の終のりける
 士かたのと年与知なれ篤 閃菩菩如中三 だえでで願戦人、が事
 へりら過の頃作ら祠ずい以如薩薩来の参 がりすく石とがのあに
 与ま 去事はさなを 中上来 十り かくは同近風つより
 作し佛帳で んい完心西十 九六三三の 現由らり 時在習たり
 事た縁にあ未の人成な与三十、、番十 は岳海念づ少郷な そ
 と残つた戸を多た人夫数、至勒珠にに 一山草願海なり の
 申った戸を多た人夫数、至勒珠にに 匹頂にを水くり 子
 して。籍 いがに妻が大菩薩薩 にもに産唱でな集有 供
 ま 法調 悪とつ日薩薩薩るい

でに中土米九 餅の次る圃をつま を餅 なのた 点がに人
 祠 祠央止二米祠、ぼの姿道見たつ糞突、与が上奥えまし女少の
 の頭の石壁0六ののた食をが降のたのきと作らえさてだ にし足
 周の基段は樞0規味餅糶見見ろか狐句差見さ一にん毆耄俺化似音
 圃部礎、与の樞模はに補るえしとでいしてん言、はり碌はけてに
 は分台一作立、は 給とた明思なは にもぼ 殺はお い気
 はか米さ方従由格か日 治つかせ鼻落す喋た暫すし前然るが
 祠兜ら巾ん体、良別ぶに立小初たつずのちれら餅しぞて達もがつ
 を式 の得の南側だり謝腹走年がた 所てばず、阿とい等女違き
 守で祠七意祠北をつつるしり頃 の 館迄い を然 なけ房う
 る の段のの、正たいよてではそかの持た糞下置と恐いだに 上
 が風頭、石基六面ろたりい急人れ 甘ち細で山きししぞも化さを
 如をまあ積礎米とう 仕るい家で正しい上いこした阿 形早にるはい
 く切でりみで六し。こ方だでがも真句げ枝した 呆立相く と人た
 る であ0 のなる帰疎半正が であ。らちで逃騙はの途
 願為二こ る樞横 日しうるで身銘す句、え らし立相く と人た
 いの米の正、へ のとと女半のるをぼた し竦立げさと云端
 石構の台面周高東 一、思房婦疑家 嗅た、くみちなれ う
 がえ高場に圃さ西 ぼ折つのも内、ぐ餅ぼ 思 上 ン早 女
 積かさ上はの一、 た角た後田下だしが、た い石つ捕ぞ合狐房

わ小 目人、にの深を で
 れ谷そをるが建にい訪 兵私
 たさの見とまで始俊れ極庫は、
 のん時は、つらま乗し山南昨
 で、つへられり房し一部年
 す由中た像れた、重た、浄を八
 °良嶋°高ても浄源°浄を月、
 先の利五、まで堂薬の寺、ま文化財
 生お雄三す、此建堂は、小た財
 は地先メ、私処久と、野°保
 修さが、トがに三浄快慶市そ護
 理ん、ル、こ阿へをつ谷と議
 がの、ル、この弥一創建が、の
 終顔これの莊浄陀三九二しり
 っだれは、の阿浄陀三九二しり
 如、快慶さ堂尊二しり
 意と慶さにに像にの
 寺言だ。

由良一歴史と文化財 (3)

御西名戒立
 冥与も名ち
 福作無はあ死戒死
 を御く、つ亡名亡
 夫 格て
 祈妻貧調 明即明
 りにじの高つ治心治
 あくいた十戒十年
 げ改美 藤九如年
 。てし立原年信二
 く派慧二月
 此死な等月、与十九
 処んで名日六日
 に行だく日
 謹んた この
 で 中

数 九九 高の たを岳九日 なさ な 一0 が下聖 灯み
 え早米米由く念更、感登日にこのれ古崩っ表千樞祠締動の祠籠重
 年速高高良し願にとじ山 ほうににて老れて面個にのる、如ののがね
 十 いく岳たが、手 は由 泰て石た話 土壁上使座法水 はつあ
 三虚青 東南事つ作合又う公然 をとで祠留とでっのな平時 立る
 才空葉東ににでたさは今ら民自完担のをはをめ あて周の勤にまつ
 の蔵山にに赤あ、そに、もか、ししで 小る役れうる三 祠襲風敵の西側
 子菩あ後岩つそれは 実元な由対た登然屋。をを 石一祠襲風敵の西側
 供薩ある若山たれは 由祠神に日登すはた八近 すえ法は四崩て切一
 に。狭が。は 由良の秘 和ろうが烈は目多 その裏普小高いため石が同て約二
 石、願 にり 岳外 的お 慈共 每の驚らの石が急勾集積
 持、を 由良岳よりりも、つ。し祠良甘い配積
 て懸けた結果 五二

